

アジア経営学会第20回全国大会プログラム

9月14日（土）		会場：法経3番教室
10:00	統一論題モバイル化時代のアジア I C T 産業 開会挨拶	
10:15	第1報告 モバイル化時代のアジア I C T 産業の ビジネス・エコシステム 中川涼司（立命館大学）	
11:00	第2報告 台湾EMS・ODM企業の現在 中原裕美子（九州産業大学）	
11:40	第1、第2報告に対する質疑	
12:00	昼食 （理事会・評議員会）	
13:15	記念講演 スマートフォンの覇者 クアルコム-アジア戦略と挑戦 山田 純（クアルコムジャパン株式会社特別顧問）	
14:15	休憩	
14:20	第3報告 韓国企業のモバイル事業戦略 宋 娘沃（中国短期大学）	
15:05	第4報告 電機産業におけるサプライチェーンの変化と電子部品・ 電子デバイス産業と同製造装置の事業戦略に対する影響 近藤信一（岩手県立大学）	
15:55 17:00	討論 討論者：肥塚 浩（立命館大学）・秋野晶二（立教大学）	
17:00 18:00	会員総会（3番教室）	
18:15 19:45	懇親会（生協吉田食堂）	

統一論題モバイル化時代のアジア I C T 産業

統一論題企画趣旨

2012年の世界の（タブレット型含まない）PC出荷台数はGartnerの2013年1月14日発表によると前年比3.5%減の3億5270万台だった。IDC調査でもほぼ同じ3.2%減であった。これはスマートフォンとタブレット端末の普及による。タブレット端末出荷台数は2011年の6000万台から2012年は1億1600万台に急増した。Windows 8はPC市場の再活性化にはあまり貢献しなかった。この趨勢は今後さらに進行すると見られており、2012年は転換の年と位置付けられるかもしれない。

このモバイル化の対応に遅れたHPやデルは大幅な赤字を計上し、逆に、モバイル化を先導するアップル、グーグル、クアルコムが伸長、アジアではサムスン電子が2012年にスマートフォンだけで2億1580万台、携帯端末合計で4億600万台を売り上げ、ともに2位を大きく引き離す1位となっている。台湾の鴻海（ホンハイ）もiPhoneの受託生産を行うことで大きく成長した。

それに対してスマートフォン化、タブレット化の流れに遅れた日本企業は完成品のレベルでは壊滅的ともいえる後退をしている。ただし、素材、デバイス、製造装置といったレベルでは国際的競争力を維持している領域も少なくない。このようにICTのモバイル化は世界的な業界再編をもたらしており、それはアジアの国際間分業の構造にも大きな影響を及ぼしている。

今回の統一論題ではこのようなモバイル化時代のアジアICT産業の構造変化を多側面からとらえたい。